

照明技術賞

劇映画部門	技術賞	影武者	担当	佐野武治
劇映画部門	特別賞	遙かなる山の呼び声	担当	青木好文
C F 部門	該当作品なし	T V 映画部門	出品作品なし	
非劇映画部門	出品作品なし	特撮映画部門	出品作品なし	

劇映画部門 技術賞 「影武者」 東宝作品



本部会員 佐野武治
昭和5年5月11日生

昭和22年 松竹京都撮影所入社。昭和32年技師となる。昭和40年同撮影所閉鎖により、フリーとなる。代表作に中村登監督「古都」森田正活監督「沈黙」「はなれ瞿女おりん」等がある。

選定理由:「味覚と色彩については誰にも言い分がある」というフランスの語があるが、自己のユニークな色彩設計を基に、端正かつ力感溢れるライティングに繊細な技法をも駆使し、様式美と実在感を混然一体となして、壮大なる戦国絵巻を描き上げた功績は昭和55年度の照明技術賞に値すると認めます。

技術賞を授賞して 本部 佐野 武治

一昨年から今年にかけて、私にとっては忘れられない年になりました。一昨年は映画界を代表する作品「影武者」に巡り合ったこと。そして今年は、私の作品で栄えある照明技術賞を頂戴したことです。私は正直にいうと企業の中に入れるとは思っていませんでした、東宝の皆さんと一緒に仕事ができるとは思っていませんでした。それが作品を担当した上に照明賞まで頂いたのです。賞はいうまでもなく一人で取れるものではありません。監督を初め、カメラマンや大勢のスタッフの力が結果としてこそうけるものだと思います。私は良きスタッフに恵まれました。猛暑の姫路で、また厳寒の北海道で照明スタッフは良く頑張ってくれました。この「影武者」の賞の喜びを共に頑張ってくれた東宝のハンドの皆さんと分かちあいたいと思います。最後になりましたが、審査員の皆様、協会幹事会員の皆様、本当にありがとうございました。今後とも映画映像の発展のために微力を尽していきたいと思ひます。

劇映画部門 特別賞 「遙かなる山の呼び声」 松竹作品



松竹支部 青木好文
昭和2年7月2日生

昭和23年6月 松竹大船撮影所入社。昭和36年「燃ゆる若者たち」が第1回担当作品。最近山田洋次監督作品を多く担当し、主な作品には「家族」「同僚」「男はつらいよ」シリーズがある。

選定理由:「選定審査委員会において、影武者と共に近來まれに見る高い評価を得たこの作品は、ロケセットとセットの数多くのカットバックという困難な画調の統一問題をかかえながら、心と心のふれ合いを慈しむように、一貫してナチュラルなライティングをもってさりげなく描き上げた功績は昭和55年度の照明特別賞に値すると認めます。

特別賞を授賞して 松竹 青木 好文

昭和55年度は大作が出そろい、わが照明部門においても優秀作、力作ぞろいといわば邦画界の照明技術も豊作の年でもありました。照明技術者の感覚と技術が向上し、候補作品のみでなく、劇映画全般に互に優れたものばかりでした。作品の良し悪しは、むしろ照明における見る者の好き嫌いという好み判断の判断といっても過言でない現在でした。

その中で私の担当しました、山田洋次監督作品「遙かなる山の呼び声」が照明特別賞を頂いたことは、大いに悩んだり反省したり材料が多く自分ながら問題を残したようでした。最初、松竹支部より候補作品として推薦を受けました折、まったく自信がなく辞退をいたしました。ところが、その後運営委員会でも取上げてくださり、また再三に互に松竹技師会より推薦をうながされましたが、初志通り辞退続けておりました。しかし、役員、会員の方達より個人的に出品することに意義ありとの熱意にいつまでも意地を張ってはと思